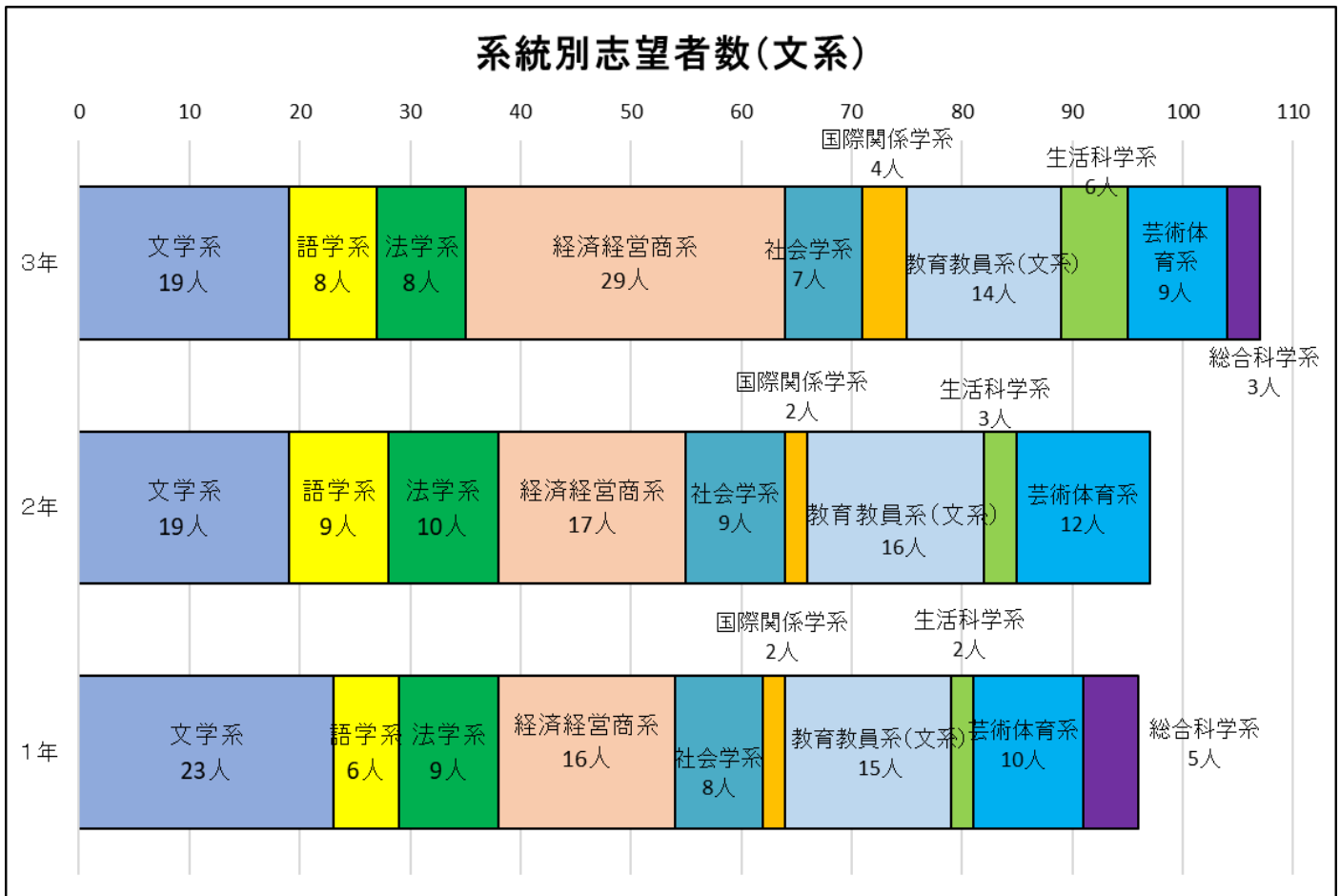
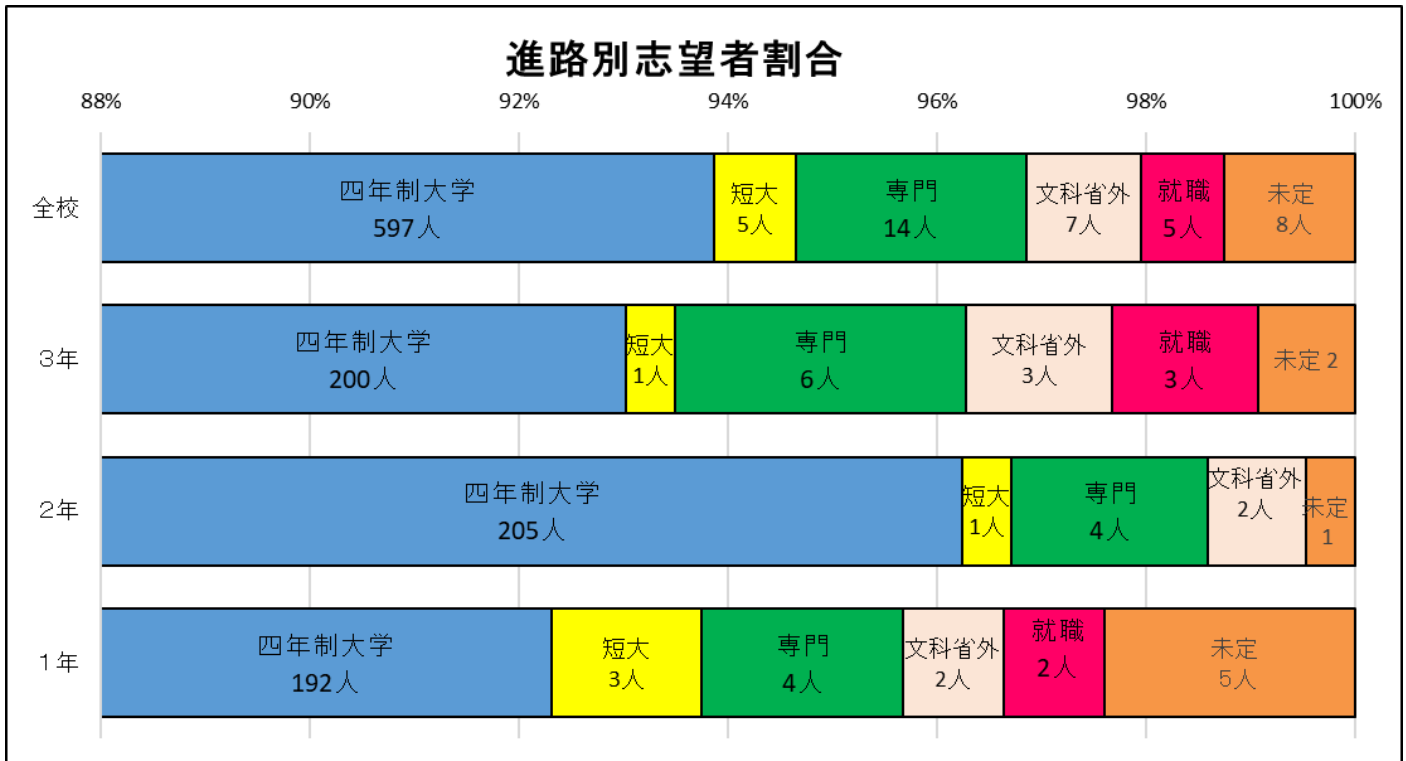
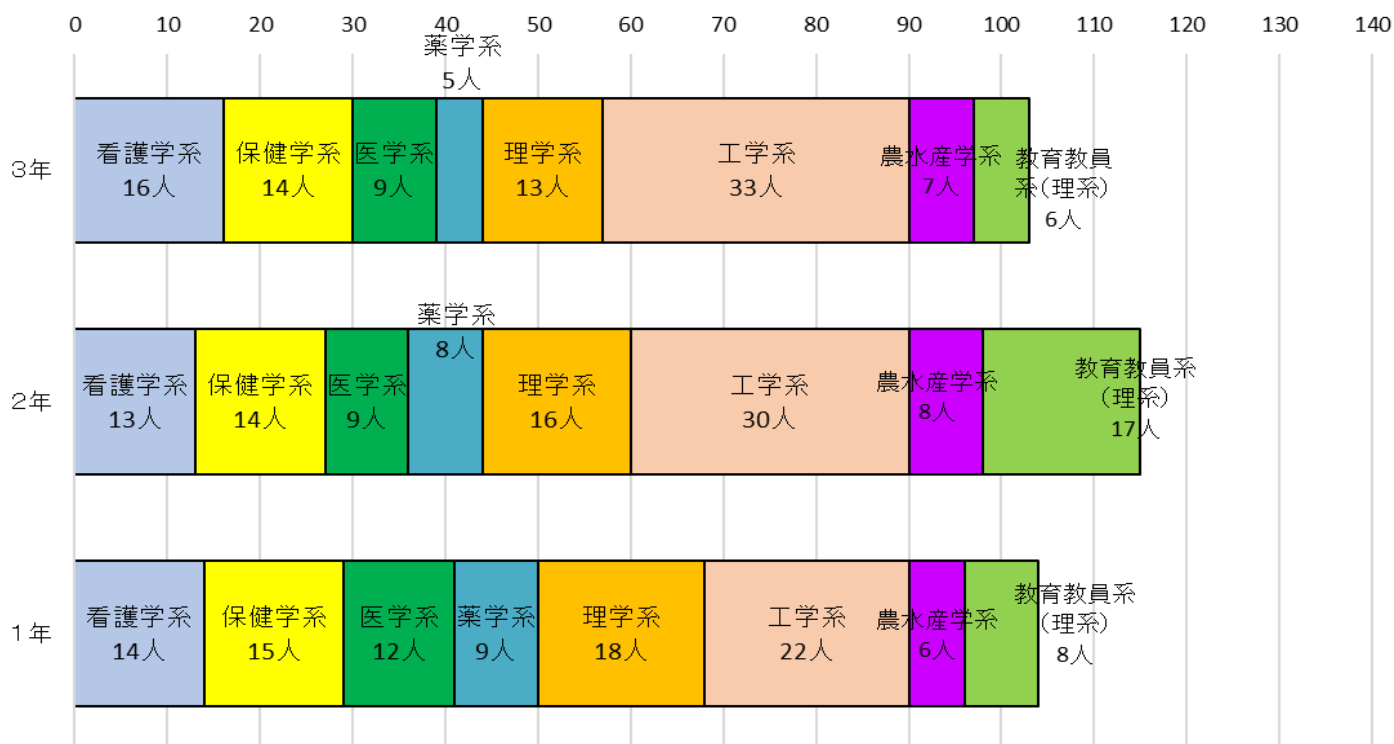


第1回 進路希望調査の結果です。(令和4年4月実施)



系統別志望者数(理系)



英語外部検定利用入試を考える 参考：蛭雪時代5月号

1 外部検定利用入試（以下外検入試）とは？

実用英語技能検定（英検）、GTEC、TOEIC、TOEFLなど、様々な英語の検定試験がありますが、これらの成績やスコアを各大学の入試で出願資格としたり、得点化して合否判定に利用したりする方式を「外検入試」と言います。一般選抜や学校推薦型選抜・総合型選抜（以前のAO入試）において、何らかの形で外検を利用する入試を行った大学は424大学にもなります。

2 外部検定利用のパターン ＊自分の志望する大学を調べてみましょう！

- ① **出願資格** 例) 東京海洋大（海洋生命科学部、海洋資源環学部 一般選抜） - 英検準2級以上
- ② **得点換算** 例) 千葉大（国際教養学部、教育学部英語教育コース 一般選抜）
- 英検準1級合格の上で2300点以上取得している場合共通テスト満点換算
- ③ **加点** 例) 千葉大（②と同学部 一般選抜） - 英検2・準1級以上2180点以上取得の場合共通テスト20点加点

3 どの外部検定を選べばよいのか？

どの入試においても、最も採用率が高いのは英検です。外検入試を実施している98%の大学が英検を採用しています。一般選抜、学校推薦型・総合型選抜でも2級の取得を求めている割合が一番高くなっています。一般選抜と学校推薦型・総合型選抜を比べると、一般選抜のほうが比較的高いレベルを求めており、準1級に関しては一般選抜では17.5%、学校推薦型・総合型選抜では7.8%となっています。英検は年に3回実施される従来どおりのものと、S-CBTという筆記・リスニング・スピーキングまで1日で終わらせることができるものがあります。S-CBTは青森県では青森市で1ヶ月に数回受験でき、個人で申し込みます。いずれも合否が出ますが、現在は得点も提示され、大学によっては得点を条件とするところもあります。

採用率が2番目に高いのがGTEC（ジーテック）です。GTECにも検定版とCBTがあります。本校では1年次に検定版の準備段階としてのアセスメントという問題を全員が受験し、2・3年次に希望者が大学入試に反映させることのできる検定版を受験できます。検定版は基本的に1年に1回本校で実施していますが、GTEC CBTは青森市で年に3回受験でき、個人で申し込みます。いずれのGTECも合否ではなく得点で評価されます。

4 外部検定のメリットは？

大学入試に反映されることがもちろんメリットですが、検定に臨み英語の学習に取り組むことで得られる力が実際に問題を解く上でも反映されることは言うまでもありません。しかし、いずれの検定にしてもかなりの費用がかかるので、受験に際してはご家族で検討し、確実に合格できるよう準備しましょう。